

# 家畜衛生広報

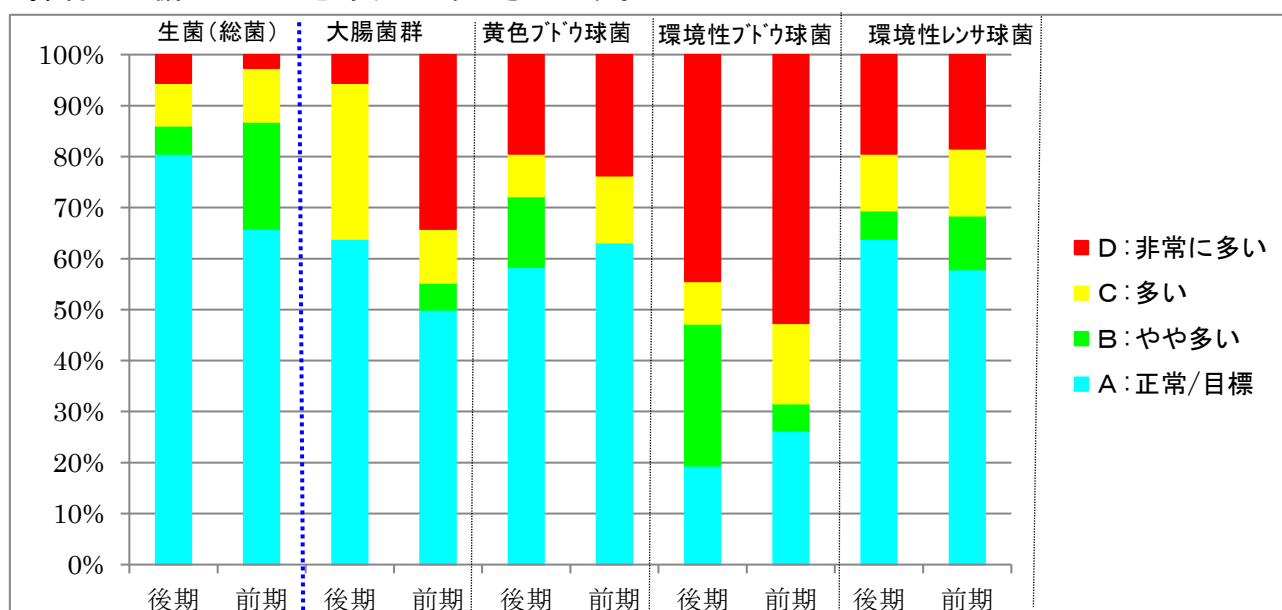


## ながの

長野家畜保健衛生所  
北信家畜畜産物衛生指導協会  
〒380-0944 長野市安茂里米村1993  
Tel 026-226-0923 Facs. 026-227-2665  
E-mail:nagakachiku@pref.nagano.lg.jp

### 平成 30 年度 酪農生産性向上対策事業における バルク乳検査結果(後期)について

11月15日～12月12日に実施しましたバルク乳検査(後期分)の集計結果をお知らせします。  
採材にご協力いただきありがとうございます。



#### 前期(6月)と比較して

**A(正常/目標)**の割合は、生菌、大腸菌、環境性レンサ球菌で多くなり、改善しました。

**D(非常に多い)**割合は、大腸菌、黄色ブドウ球菌、環境性ブドウ球菌で減少しました。

### バルク乳検査結果に基づくケース別の対応

#### 1 黄色ブドウ球菌(SA)が検出された場合

牛群内に SA 感染牛がいます。菌数の多少にかかわらず対策をとりましょう。

全頭の細菌検査を行い、感染牛(感染分房)を特定し、搾乳順序を最後にするなどの当面の対応を行い、乾乳期治療、経過観察、淘汰などの対策を決めます。

#### 2 環境性ブドウ球菌、環境性レンサ球菌が多い場合

環境性ブドウ球菌や環境性レンサ球菌が検出されても、牛がこれらの菌に感染しているとは限りません。これらの菌は環境に由来するので、菌が多数検出された場合は、環境や搾乳衛生に問題があり、環境性乳房炎に罹る可能性が高いと考えられます。

牛床の汚れや乾燥状態を確認し、乳房や乳頭の汚れを少なくしましょう。また搾乳手順や搾乳方法を見直し、とくに乳頭の清拭方法をチェックしましょう。

#### 3 大腸菌、耐熱性菌が多い場合

これらが多い場合は、搾乳機器の洗浄殺菌に問題があります。搾乳システムの洗浄状態やライナーゴムの劣化をチェックしましょう。大腸菌数が多く、耐熱性菌が少ない場合は、搾乳衛生の不良が考えられます。搾乳手順を再度検討しましょう。

**消毒は伝染病予防の第一歩**  
まずは踏み込み消毒槽を畜舎に置きましょう

